

ソウル王宮の魅力

武井 一 (東京都立日比谷高等学校)

1.王宮の印象

ソウルに観光旅行では朝鮮時代(李朝時代)の王宮に行くことが多い。正宮である景福宮(경복궁:キョンボックン)や世界遺産の昌徳宮(창덕궁:チャンドックン)、後苑(후원:フウォン[秘苑])をまわることが多のだが、なぜか印象に残りにくいようである。理由はいくつか考えられる。同じような建物が並んでいる。王宮や後苑の構造が分からない。歴史的背景が分からないことなどが考えられる。

2.王宮の構造

王宮とは王の住む「宮」のこと。韓国では宮闕(궁궐:クングオル)ともいう。構造は中国皇帝との関係によって決められている。基本は「三門三朝」形式。“南北”に“一直線”になるように殿閣を配置する。正門から3つの門(三門)をくぐると公式行事をする“正殿”である。景福宮なら光化門(광화문:クァンファムン)から3つ目の門をくぐると勤政殿(근정전:クンジョンジョン)。2つ目の門をくぐったところには“禁川(금천:クムチョン)”が流れる。門の入口は3つ。正殿は正面の柱が6本(5間)、表から見ると二階建て(実際は平屋)である。王の椅子は「南向き」に置かれ、周囲や天上には王を象徴したものが配置される。建物にも政治の安定を願う色と模様が塗られる(丹青[단청:タンチョン])。正殿の後側の門をくぐると日常の政務を執る空間、その後ろの門をくぐると生活の空間(三朝)である。各空間は行廊(행랑:ヘンナン)といわれる回廊のようなもので囲われた独立の空間である。それまでの政治の場と生活の場では柱の形や、木の植え方に違いがある。政治の空間には門周辺以外木は植えられなかった。三朝の後ろは休息の場である後苑となる。王宮ごとにヴァリエーションはあるが、昌慶宮(창경궁:チャンギョングン)以外はこの原則が守られている。

3. 風水との関係

王宮は都の中央に作られ、正面右に社稷壇(사직당:サジクタン)、左に宗廟(종묘:チョンミョ)を作ることになっている。中国北京の紫禁城は典型的な作りとなっているが、ソウルの場合は必ずしもそうはなっていない。1392年、李成桂(이성계:イソンゲ)が朝鮮王朝をおこし、開京から漢城(ソウル)に都を移したのは、風水的な理由からであった。その風水的に優れた気が出る場所に景福宮が作られた。とくに交泰殿(교태전:キョテジョン)の場所がそうである。ここにより「気」があふれる工夫もされている。王宮の軸は南北から微妙にずれている。南側にある山、冠岳山(관악산:クァナクサン)が風水で「火」を呼ぶ山だからだ。それを意識して王宮造りや町造りが行われた。南の入口崇礼門(숭례문:スンネムン[南大門])にも工夫が行われているし、勤政殿の周囲には火や魔を防ぐためのものが多く置かれている(十二支像、四神像、トゥム、雑像、プルガサリなど)。それでも景福宮は災難続きで一時王宮として使うことが放棄された。景福宮のみなら

ず、王宮での火災は多い。建物が回廊などで連結されているために大火になりやすかったのである。

4. 王宮生活

景福宮は公式行事の場であることと、放棄された時期が長いこと正祖はじめ多くの王は離宮である昌徳宮と昌慶宮を中心に生活した。王宮には様々な名前の建物がある。用途に応じて殿、宮、閣、軒など名前がついている。基本的には殿、宮ごとに独立予算で専属の官吏や宮女（궁녀：クンニョ [女官]）がつく。王は起床後、食事をとり儒学の勉強と政務をこなす。食事は水刺間や焼耐房の担当。王は徳によって政治をする必要があったので、自己の徳をより高めることが求められ、そのために儒学やあるべき政治の勉強が必要だった。ただ、勉強が嫌いな王もいた。暴君で知られる燕山君（연산군：ヨンサングン）は勉強をしなかったといわれる。

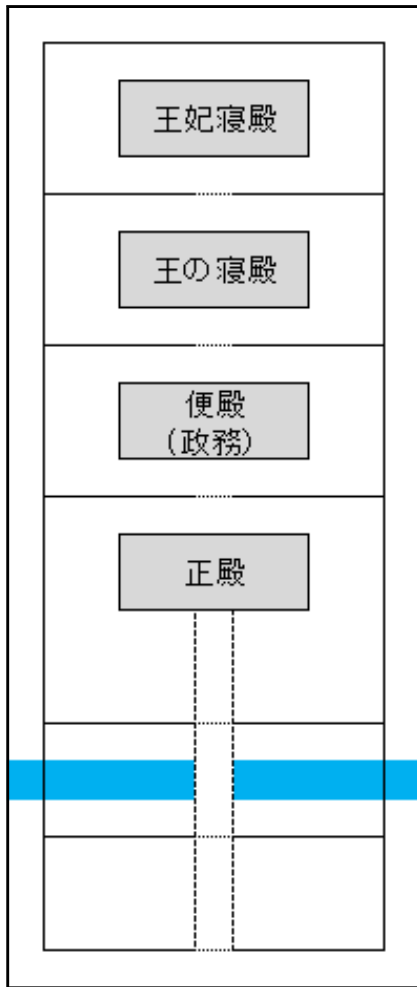
王になるためには世子（세자：セジャ）、世孫（세손：セソン）に冊封され、つづいて王に冊封される。多くは前王の死去の時だから、喜びの就任式ではない。王妃は三度の選任儀式（揀擇 [간택：カンテック]) を経て全国にいる年頃の女性から選ばれることが建前。国母としての役割が期待される。王妃の宮以外で生活することは許されない。王は自由に出歩けるし、女性を選ぶことも出来る。宮女でそうなった場合は特別尚宮という立場になる。王が自由に出歩けると言ってもお忍び以外は地面に足を着けることは出来なかった。そんな状態だから慢性的運動不足でそれに対する障害も多かった。そのために医官や医女も活躍した。結果的に苦しんで死亡した王も多い。一方でいまだに死亡原因が議論になる王や王族もいる。

5. 近代の王宮

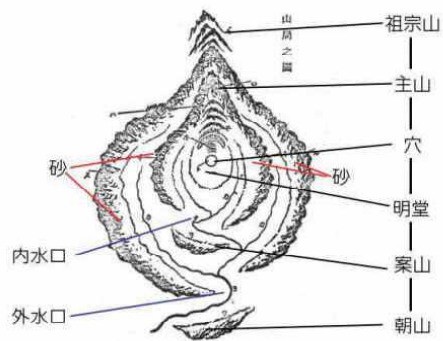
近代に入り、韓半島は日本をはじめとする列強の角逐の場となる。朝鮮王国も清国との関係を離れて明成皇后（명성황후：ミョンソンファンフ [閔妃]）が景福宮奥の乾清宮（건청궁：コンチョングン）で暗殺されたのもその中であつた。1907年ハーグ密使事件により高宗（고종：ゴジョン）が退位、純宗（순종：スンジョン）が即位して、高宗は徳寿宮（덕수궁：トクスグン）、純宗は昌徳宮で生活することとなった。さらに、純宗を慰めるという目的で昌慶宮は昌慶苑（창경원：チャンギョンウォン）という動物園に改装された。王宮の建物も様々な理由で解体、撤去されたが、1910年日本の植民地になると、それが一層進んだ。景福宮には朝鮮総督府の庁舎が建てられ、光化門も一時別の場所に移動させられた。景熙宮（경희궁：キョンヒグン）は京城中学校の校地になってしまった。韓国の光復後（日本の敗戦、独立）も朝鮮戦争での被害も受けた。空き地になってしまった所が多いが、現在発掘復元作業を行い、王宮を従来の姿に復元する作業が進行中である。

参考資料

【三門三朝】



【風水とソウル】



【景福宮】



【昌慶宮】



【光化門】景福宮



【弘化門】昌慶宮



【勤政殿】景福宮



【仁政殿】昌德宮



王の象徴

1 踏道（景福宮）



（徳寿宮）



2 日月五嶽圖(勤政殿)



3 天上 (勤政殿)



明政殿 (昌慶宮)



4 鼎

生活の空間 交泰殿（王妃の空間）



後苑(昌徳宮)



景福宮



魔を防ぐ

十二支像、四神像



雑像



瑞獣



トウム



ブルガサリ



幸福を願う





胎室 (昌慶宮)



丹青



(参考) 寺の丹青

(参考) 王の食事



